科目名	精神保健福祉演習Ⅱ	科目コード	W32030	単位数 時　間	4単位 60時間	対象学年	4年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山　龍太		授業形態	演習	単独	

授業の概要	精神保健福祉演習Ⅰを基礎とし、更なる技術向上を図る。精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。具体的な援助場面を想定した事例検討及びロールプレイ等を中心に授業を展開する。
到達目標	総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談事例を通して、自ら考え行動し解決できる能力を体得することを目標とする。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	ソーシャルワークにおける事例の理解	事例を通してソーシャルワークを理解する重要性を理解する	演習	第16回	事例演習：地域における精神保健問題①	事例を通して地域が抱える問題の把握とそれに対処する為の方策を理解する	演習
第2回	ソーシャルワークのプロセス①	ソーシャルワークの流れを事例を通して理解する	演習	第17回	事例演習：地域における精神保健問題②	事例を通して地域が抱える問題の把握とそれに対処する為の方策を理解する	演習
第3回	ソーシャルワークのプロセス②	ソーシャルワークの流れを事例を通して理解する	演習	第18回	事例演習：地域における精神保健問題③	事例を通して地域が抱える問題の把握とそれに対処する為の方策を理解する	演習
第4回	事例演習：当事者とその生活①	事例を通して当事者の生活を理解する	演習	第19回	事例演習：地域における精神保健問題④	事例を通して地域が抱える問題の把握とそれに対処する為の方策を理解する	演習
第5回	事例演習：当事者とその生活②	事例を通して当事者の生活を理解する	演習	第20回	事例演習：家族と学校①	事例を通して家族と学校との関係性の中で行われる支援の方法を理解する	演習
第6回	事例演習：医療機関から地域生活へ①	事例を通して医療から地域へ移行する為の流れを理解する	演習	第21回	事例演習：家族と学校②	事例を通して家族と学校との関係性の中で行われる支援の方法を理解する	演習
第7回	事例演習：医療機関から地域生活へ②	事例を通して医療から地域へ移行する為の流れを理解する	演習	第22回	事例演習：家族と学校③	事例を通して家族と学校との関係性の中で行われる支援の方法を理解する	演習
第8回	事例演習：医療機関から地域生活へ③	事例を通して医療から地域へ移行する為の流れを理解する	演習	第23回	事例演習：地域援助事例①	事例を通して課題解決の為、地域への働きかけの方法や重要性を理解する	演習
第9回	事例演習：地域生活への支援体制①	事例を通して地域生活を推進する為のプロセス、資源の開発法等を理解する	演習	第24回	事例演習：地域援助事例②	事例を通して課題解決の為、地域への働きかけの方法や重要性を理解する	演習
第10回	事例演習：地域生活への支援体制②	事例を通して地域生活を推進する為のプロセス、資源の開発法等を理解する	演習	第25回	スーパービジョン①	プロがプロを支援するスーパービジョンの具体的なアプローチの方法を理解する	演習
第11回	事例演習：地域生活への支援体制③	事例を通して地域生活を推進する為のプロセス、資源の開発法等を理解する	演習	第26回	スーパービジョン②	プロがプロを支援するスーパービジョンの具体的なアプローチの方法を理解する	演習
第12回	事例演習：地域生活への支援体制④	事例を通して地域生活を推進する為のプロセス、資源の開発法等を理解する	演習	第27回	スーパービジョン③	プロがプロを支援するスーパービジョンの具体的なアプローチの方法を理解する	演習
第13回	事例演習：精神科リハビリテーション①	事例を通して、精神科リハビリテーションの一端を学ぶ	演習	第28回	実習をもとにした振り返り①	精神保健福祉実習での経験をもとにこれまでの演習内容の振り返りを行う	演習
第14回	事例演習：精神科リハビリテーション②	事例を通して、精神科リハビリテーションの一端を学ぶ	演習	第29回	実習をもとにした振り返り②	精神保健福祉実習での経験をもとにこれまでの演習内容の振り返りを行う	演習
第15回	事例演習：精神科リハビリテーション③	事例を通して、精神科リハビリテーションの一端を学ぶ	演習	第30回	まとめ	1年間の総まとめを行う	演習

評価方法及び評価基準	出席が３分の２に満たない者は評価の対象としない。授業への参加度（100%）で評価する。 事例演習に応じた支援案等を立案、ロールプレイで実践する作業を繰り返すので、積極的な発言、考察が必要である。
教材教科書参考書	坂野憲司編『精神保健福祉援助演習（専門）』弘文堂
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。 ソーシャルワーク関係の知識・技術は、関連科目で習得済であることを前提として授業展開を行うので、不足する部分は予め補っておくこと。 積極的な発言、考察を求めるが、他者への配慮を忘れずに、節度ある取り組みに注意すること。

科目名	社会福祉行政論	科目コード	W33011	単位数 時間	1単位 16時間	対象学年	4年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	西東　克介		授業形態	講義	単独	
授業の概要	［キーワード：福祉国家、行政国家、大きな政府、官僚制、ストリートレベルの官僚制、専門職と組織］ 社会福祉行政、これに関わる行政組織・民間組織・専門職との関係を分析し、問題点を考察します。								
到達目標	・社会福祉行政を国家論および官僚制論から見ていくことができるようにします。 ・スペシャリスト、エキスパート、「専門職」、専門職の関係を理解し、自らの指針に磨きをかけます。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	講義の概要と展開	本講義の概要、展開、そして試験等について説明。	
第2回	福祉国家と行政国家と「大きな政府」の違いと共通点	福祉国家とは、福祉行政や関連する行政が増大した国家、行政国家とは３権の中で、行政部門が肥大した国家、「大きな政府」とは、あらゆる行政が肥大した国家です。共通点はいずれも行政費用の増大をまねきます。	
第3回	日本の福祉行財政の歴史的展開と今後	戦後から1990年代までの福祉行政と2000年代からの福祉行政では、その理念や具体的政策が大きく変わった。	
第4回	社会福祉行政と地方公共団体	変わった点は、地方自治体の役割が非常に大きくなりました。措置から契約へとほぼ政策理念が変わり、多くの社会福祉法人や民間企業が社会福祉事業に関わることになりました。	
第5回	介護保険制度と行政	社会福祉政策の中でも大きく変わったのが高齢社会に対応した介護保険制度が取り入れられたことです。	
第6回	社会福祉事業と事業者に対する指揮監督	政策に契約理念が採用されたため、たくさんの高齢者施設やサービス事業が社会福祉法人や民間企業によってできました。契約どおりにサービス提供ができない場合、行政の指揮監督がなされることも。	
第7回	社会福祉の費用と財源	社会福祉の費用と財源は、基本的には国の税金と国民の介護保険料等で賄われます。その他には、寄付金などがあります。	
第8回	まとめと試験	講義全体のまとめと試験	

評価方法及び評価基準	教科書：池村正道編集『福祉行財政と福祉計画』（社会福祉士シリーズ１０）弘文堂、2013年（第２版）。できるだけ新しいものがよい。
教材 教科書 参考書	
留意点	2015（平成27）年度以前に入学した学生は、第７回の講義まで出席してください。試験は、「社会福祉行政論」と「福祉計画論」の双方を新年の１月の終わりか２月の初めに私の研究室で行います。

科目名	福祉計画論	科目コード	W33012	単位数 時間	1単位 16時間	対象学年	4年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	西東　克介		授業形態	講義	単独	
授業の概要	［キーワード：PDCAサイクル、計画と組織、説明責任（アカウンタビリティ）、評価、監査］ ・官僚制の下で、計画が精緻化されていくことの意義と機能を説明し、計画の長所と短所を考えます。								
到達目標	・官僚制と計画の関係を理解して、福祉計画について分析できるようにします。 ・行政責任（行政統制）論を理解して、福祉計画の評価と監査の違いを理解するようにします。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	講義の概要説明	講義の概要、計画、試験等について説明します。	
第2回	計画とは何か	計画の基本的理解と我が国戦後の国家的計画の歴史	
第3回	行政計画と福祉計画	行政福祉計画と社会福祉法人等の福祉計画の理解	
第4回	福祉計画の策定過程とその方法	PDCAサイクルの基礎的理解とその策定方法の理解	
第5回	具体的な福祉計画	様々な具体的な活動をどのように福祉活動として計画に取り入れていくのかを考察	
第6回	ジェネラリスト・スペシャリスト・「専門職」・専門職	行政組織にはジェネラリストとスペシャリストの分類があり、さらにエキスパート、「専門職」、専門職の分類があります。これらについての基礎的理解。	
第7回	福祉計画の評価方法	福祉計画の評価方法と評価と監査の違い	
第8回	まとめと試験	福祉計画論のまとめと試験	

評価方法及び評価基準	試験（100%）　文章の構成と論理性を中心に評価
教材教科書参考書	「社会福祉行政論」の教科書と同じ。
留意点	14（平成26）年度以前の入学生は後期「福祉計画論」と前期「社会福祉行政論」の講義を第７回まで出席してください

科目名	更生保護論	科目コード	W33014	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 選択必修	担当者名	平野　潔			授業形態	講義	単独

授業の概要	更生保護は、犯罪者や非行少年の立ち直りを支援し、その支援を通じて犯罪の発生を未然に防ぐ活動を指します。現在では、警察、検察、裁判、矯正の各制度と並んで、刑事政策の重要な一局面を担っています。 本講義においては、更生保護制度の沿革、仕組み、他の各制度との違いなどの概要を理解した上で、あるべき犯罪者・非行少年の自立支援のあり方についても考えていきたいと思います。
到達目標	・ 更生保護が身近な問題であり、国民一人一人が考えたり取り組んだりしなければならない問題であることを実感できる。 ・ 更生保護制度の仕組みや手続きを、どうしてそのような仕組みや手続きが準備されているのかを含めて理解する。 ・ 犯罪や非行からの立ち直りに関して、現在どのような問題が起きており、それに対してどのような対策が採られているかを把握する。 ・ 更生保護が抱える問題点を理解した上で、更生保護のあるべき姿について自分なりの考えを持つことが出来る。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	更生保護の全体像	授業のイントロダクションとして、更生保護という言葉の意味、その目的、内容などを概説する。	
第2回	刑事司法のなかの更生保護	成人および少年の刑事事件の手続きの流れを概説した上で、刑事司法のなかで更生保護はどの段階に位置付けられるかを確認する。	
第3回	仮釈放	仮釈放制度の概要を説明した上で、どのような趣旨で設けられているかを解説する。	
第4回	生活環境の調整	生活環境の調整の意義や内容について説明する。また、新たな取り組みとしての特別調整についても解説をする。	
第5回	保護観察制度の概要	保護観察の基本的な内容を解説した上で、具体的にどのような手続きで実施されているかを説明する。	
第6回	更生緊急保護	更生保護における更生緊急保護の位置づけを解説する。また、その手続きや類似制度との違いについても説明する。	
第7回	恩赦	恩赦について、内容・手続き・現状について説明をする。とくにその機能について詳しく取り上げる。	
第8回	更生保護における犯罪被害者施策・犯罪予防活動	近時採り入れられた被害者支援制度に関して概説する。また、犯罪予防活動の概要も解説する。	
第9回	保護観察官と保護司	保護観察の中核を担う保護観察官と保護司について、その職務内容を説明する。	
第10回	更生保護施設における処遇	更生保護施設がどのような役割を担っているかを、そこで実施されている処遇内容を踏まえて解説する。	
第11回	民間協力者の役割	民間協力者である更生保護女性会、ＢＢＳ会、協力雇用主の活動内容を中心に、それぞれが担う役割を説明する。	
第12回	医療観察制度成立の背景	心神喪失者等医療観察法が成立する前にどのような問題が生じていたのかを分析した上で、医療観察法成立の背景を説明する。	
第13回	医療観察制度のしくみ	医療観察法の手続き的なしくみを紹介した上で、それがどのような意図のもとに作られたのかを解説する。	
第14回	更生保護の近時の動向	これまでの講義内容から現在の更生保護の問題点を抽出し、その解決策として近時提示されている新たな取り組みを紹介する。	
第15回	更生保護が抱える今後の課題	これまでの取り組みによっても改善できていない課題を提示した上で、どのような解決策があり得るのかを考える。	

評価方法及び評価基準	平常評価　30% 授業の感想記入、質問等への回答、授業中の受講態度、授業の要約等を総合して平常評価とします。ただ授業に出ているだけでは、点数はつきませんので注意をして下さい。 定期試験　70% 授業内容から「論述問題」を中心に出題します。試験の際には、授業中に配布した資料と自筆ノートのみ持ち込みを認めます。 採点のポイントは、授業で扱った用語、制度の趣旨、手続きなどを理解した上で、それを相手に伝わるような形で表現できているか、自分なりの考えを表現できているかという点になります。
教材 教科書 参考書	とくに指定しません。授業時に資料を配布し、それに従って授業を進めます。 参考書等は開講時に紹介します。
留意点	毎回の授業終了時にはコメント記入を求められますし、次回までにやってくる課題が出されます。コメントや課題の内容によっては点数がつかないこともあります。授業そのものに関しても、ただ授業に来ているだけで居眠りをしたり内職をしたりしている場合には平常点にはカウントされません。 本講義に関しては、授業中ただ座って話を聞いているだけでは意味がありません。つねに何が問題となっているのか、それを解決するためにはどのようにすればいいのか、ということを考えながら授業を受けてください。また、授業中は受講生の皆さんに条文を読んでもらったり、発言を求めたりしますので、そのつもりで緊張感をもって授業に臨んでください。

科目名	社会福祉経営論	科目コード	W33015	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	4年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	保田　宗良		授業形態	講義	単独	
授業の概要	福祉サービスを理解するために必要な、組織論、基本的な経営理論、マーケティング、労務管理、財務管理、情報管理を、具体的な事例を用いて丁寧に説明します。福祉サービス、医療サービス、介護サービスの総合的な考察を進めます。								
到達目標	福祉サービスの経営を理解するための基礎理論を修得することにより、具体的な事例の検討課題を推測する力量を養います。社会福祉法人の施設長は、どのような理念にもとづきマネジメントを進めているのか。どのような福祉サービス、介護サービスを計画しているのかを、想定する力量を修得することが到達目標です。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	福祉サービスの全体像	福祉サービスの概念を明確に示し、学習する範囲を確定します	
第2回	福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織、経営、サービスの特質を学習します。	
第3回	福祉サービスの組織と団体（1）	法人の概念、社会福祉法人の基本的性格を明確にします。（教科書の指定の範囲を復習するように指示をします。）	
第4回	福祉サービスの組織と団体（2）	特定非営利活動法人、その他の組織や団体について言及します	
第5回	組織の基礎学習	組織論について学習し、福祉サービスと組織作りを考察します	
第6回	経営学の基礎（1）	経営戦略、組織戦略についての基礎知識を説明します。（教科書の指定の範囲を復習するように指示をします。）	
第7回	経営学の基礎（2）	人的資源管理、マーケティングの基礎知識を説明します。	
第8回	組織の経営と実際	リーダーシップに関する基礎理論を詳細に検討します。指定したテーマの中間レポートを提出します。	
第9回	サービス管理	福祉サービスの質の評価を学習します。（講義の復習の内容を指示します。）	
第10回	労務管理、人事管理	福祉サービスにおける労務、人事管理について学習します。	
第11回	人材育成	人材育成の意義と必要性について事例研究を進めます。	
第12回	財務管理	社会福祉法人の経営に必要な財務管理の仕組みを学習します。（教科書の指定の範囲を復習するように指示をします。）	
第13回	会計管理、情報管理	会計制度と情報管理について基礎理論を明確にします。	
第14回	福祉サービスの労働環境	社会福祉法人の給与体系、福利厚生について考察します。	
第15回	半期のまとめ	半期の学習を復習します。社会福祉法人のマネジメントを総合的に検討します。	

評価方法及び評価基準	中間レポート（40点）＋期末試験（45点）＋平常点（15点）合計100点、中間レポート及び期末試験は自分の考えが整理されているかを重要視します。論旨を明快に記述する工夫を評価します。
教材教科書参考書	社会福祉士養成講座編集委員会編集「新・社会福祉士養成講座11 福祉サービスの組織と経営」中央法規出版。参考書は必要に応じて紹介します。
留意点	経営学、組織論の学習が中心になります。新聞、ニュースの事例に関心を持ってください。

科目名	精神保健福祉論	科目コード	W33023	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	4年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	葛西　久志		授業形態	講義		単独
授業の概要	精神保健福祉論は精神保健福祉制度論Ａ・Ｂと連動した科目であり、精神障害者の地域での自立と社会参加を促進するための様々な支援システムについて概説する。はじめに、障害者概念から、精神障害者の特性と生活実態（家族会の実態含む）などについて説明する。また、精神障害者の雇用・就労支援などの政策と課題や、居住支援の実態を探りながら説明する。その他、地域ネットワークや、精神保健福祉ボランティア等の生活支援システムについて幅広く解説する。								
到達目標	ＩＣＩＤＨからＩＣＦなどの障害者概念の変遷と各種法制度の障害者概念を学ぶ。その中で精神障害者の特性（行動特性）も同時に学ぶ。さらには、精神障害者の概況と生活実態や、家族（家族会含む）の意識調査から現状などを学び、また関連法の中の精神障害者の雇用・就労支援や居住支援等の施策と課題を探りながら学ぶ。後半には、地域ネットワークシステムをはじめ、精神保健福祉ボランティア、ケアマネジメントなどについて幅広く学び手法・技法について身につける。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	精神障害者の概念①	ＩＣＩＤＨからＩＣＦへ、サバイバルスキルとＳＯＳ能力、症状ではなく能力レベルで評価	
第2回	精神障害者の概念②	精神障害者の概念（定義）、精神保健福祉法（第1条・第5条）、障害者基本法、障害者総合支援法	
第3回	精神障害者の概念③	精神障害者の疾病による影響、日常生活につながる行動特性	
第4回	精神障害者の生活の実際①	精神障害者の概況①（精神障害者数、入院患者数など厚生労働省のデータ紹介）	
第5回	精神障害者の生活の実際②	精神障害者の概況②（精神障害者の生活状況など厚生労働省のデータ紹介）	
第6回	精神障害者の家族の現状①	過去における家族の実態（ぜんかれん調査）、現在の家族の実態（みんなねっと調査）	
第7回	精神障害者の家族の現状②	家族会に期待すること、家族の7つの提言	
第8回	精神障害者の雇用・就労支援①	障害者雇用促進法、障害者雇用納付金制度、職業リハビリテーション、他	
第9回	精神障害者の雇用・就労支援②	ハローワークの事業、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、他	
第10回	精神障害者の雇用・就労支援③	障害者雇用施策の主な助成金制度、障害者雇用の原則、他	
第11回	精神障害者の居住支援①	居住支援制度の歴史的展開（イギリス、アメリカ、日本）	
第12回	精神障害者の居住支援②	グループホーム、一般アパート、保証人制度の課題	
第13回	地域ネットワークの理解	地域ネットワークの目的と必要性、地域ネットワークの構造、地域ネットワークの課題、他	
第14回	精神保健福祉ボランティアの育成と活用	精神保健福祉ボランティアとは、精神保健福祉ボランティアの育成と活用、他	
第15回	ケアマネジメントの実際	民間における相談支援、行政における相談支援	

評価方法及び評価基準	学則規程に従い出席が３分の２に満たない者は評価の対象としない。定期試験（100%）で評価する。定期試験は、主に精神保健福祉の歴史的変遷（制度の変遷含む）や、障害者総合支援法などについてどの程度理解したか評価する。
教材 教科書 参考書	新・精神保健福祉士養成講座第７巻　「精神障害者の生活支援システム」　第３版　中央法規出版
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。

科目名	社会福祉調査実習A	科目コード	W35001	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	4年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	藤岡 真之		授業形態	実習	単独	

授業の概要	社会福祉調査法の講義で学んだことを踏まえて、インタビュー調査等の質的調査またはアンケートを用いた量的調査のいずれかを企画する。調査テーマはメンバーの話し合いによって決める。これまでこの実習では、近所づきあいに関する調査、家族関係に関する調査、老後の生活に関する調査、日常生活における宗教的行為についての調査などを企画してきた。
到達目標	・社会調査の方法を理解する ・社会調査によって明らかにできることを理解する ・仮説を立てられるようになる ・社会調査全体の流れを理解する

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	社会福祉調査とは何か（1）	これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ	
第2回	社会福祉調査とは何か（2）	これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ	
第3回	社会福祉調査とは何か（3）	これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ	
第4回	社会福祉調査とは何か（4）	これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ	
第5回	調査テーマの検討（1）	話し合いをしながら調査テーマを考える	
第6回	調査テーマの検討（2）	話し合いをしながら調査テーマを考える	
第7回	調査テーマの検討（3）	話し合いをしながら調査テーマを考える	
第8回	調査テーマの検討（4）	話し合いをしながら調査テーマを考える	
第9回	調査テーマの検討（5）	話し合いをしながら調査テーマを考える	
第10回	先行研究の検討（1）	調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる	
第11回	先行研究の検討（2）	調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる	
第12回	先行研究の検討（3）	調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる	
第13回	先行研究の検討（4）	調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる	
第14回	実査の企画（1）	実際に行う調査の方法、時期等を検討する	
第15回	実査の企画（2）	実際に行う調査の方法、時期等を検討する	

評価方法及び評価基準	授業への参加度、課題への取り組みを総合的に評価する
教材 教科書 参考書	使用しない
留意点	

科目名	社会福祉調査実習B	科目コード	W35002	単位数 時間	2単位 30時間	対象学年	4年	開講学期	後期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	藤岡 真之		授業形態	実習	単独	
授業の概要	社会福祉調査実習Ａで企画した社会調査の内容を踏まえて、インタビュー調査等の質的調査またはアンケートを用いた量的調査のいずれかを実施する。具体的に行うことは、質問票の作成、調査の実施、データの集計、データの分析である。これまでこの実習では、近所づきあいに関する調査、家族関係に関する調査、老後の生活に関する調査、日常生活における宗教的行為についての調査などを実施してきた。								
到達目標	・仮説に合わせた質問項目を作成できるようになる ・質問票を用いて実際に調査を行えるようになる ・調査結果を適切に集計できるようになる ・調査データを分析できるようになる								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	質問票の作成（1）	仮説に合わせた質問項目を作成する	
第2回	質問票の作成（2）	仮説に合わせた質問項目を作成する	
第3回	質問票の作成（3）	仮説に合わせた質問項目を作成する	
第4回	質問票の作成（4）	仮説に合わせた質問項目を作成する	
第5回	質問票の作成（5）	仮説に合わせた質問項目を作成する	
第6回	調査の実施（1）	実際に調査を行う	
第7回	調査の実施（2）	実際に調査を行う	
第8回	調査の実施（3）	実際に調査を行う	
第9回	調査の実施（4）	実際に調査を行う	
第10回	調査結果の集計（1）	調査によって得られたデータを集計する	
第11回	調査結果の集計（2）	調査によって得られたデータを集計する	
第12回	調査結果の集計（3）	調査によって得られたデータを集計する	
第13回	調査結果の分析（1）	集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する	
第14回	調査結果の分析（2）	集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する	
第15回	調査結果の分析（3）	集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する	

評価方法及び評価基準	授業への参加度、課題への取り組みを総合的に評価する
教材 教科書 参考書	使用しない
留意点	

科目名	精神保健福祉実習指導Ⅱ	科目コード	W35005	単位数 時　間	2単位 30時間	対象学年	4年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　選択 精神保健福祉士指定科目　必修	担当者名	葛西　久志			授業形態	講義		単独

授業の概要	精神保健福祉実習は精神障害者の理解に始まり、制度理解、社会福祉全般の知識や精神保健福祉の援助技術など講義、演習で学んだことを活用する。実習後は、実習計画にあげた課題の成果をふりかえりながら総括し報告書を作成する。また、在学生、教員、実習指導者も招いて公開報告会も実施する。
到達目標	精神保健福祉の臨床現場における実習を通して、各実習機関（精神科病院、障害福祉サービス事業所など）の役割、機能を把握する。また、最も大切なことは精神障害者への支援・援助を通して、自己理解を深め、気づきのある実習にすることと精神保健福祉士の役割とは何かを学ぶことである。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	精神保健福祉実習 オリエンテーション	①実習の目的・意義 【実習機関調べ担当割り当て】		第16回	精神保健福祉実習	実習Ⅱ期ふりかえり	
第2回	精神保健福祉実習	②実習計画書の作成 【実習機関の理解：精神科病院+入院形態】		第17回	精神保健福祉実習	実習Ⅱ期ふりかえり	
第3回	精神保健福祉実習	③事前訪問とは、 【実習機関の理解：地活支援センター+自立訓練事業】		第18回	精神保健福祉実習	スーパービジョン【事例検討Ａ・Ｂ】	
第4回	精神保健福祉実習	④実習に向けての心構え 【実習機関の理解：就労継続支援+多機能型事業所】		第19回	精神保健福祉実習	スーパービジョン【事例検討Ｃ・Ｄ】	
第5回	精神保健福祉実習	⑤実習中のアクシデントへの対応 【制度理解：医療保険+自立支援医療】		第20回	精神保健福祉実習	スーパービジョン【事例検討Ｅ・Ｆ】	
第6回	精神保健福祉実習	⑥専門職の価値と倫理 【制度理解：介護保険+障害者総合支援法】		第21回	精神保健福祉実習	スーパービジョン【事例検討Ｇ・Ｈ】	
第7回	精神保健福祉実習	⑦精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割【制度理解：生活保護+年金制度】		第22回	精神保健福祉実習	スーパービジョン【事例検討Ｉ・Ｊ】	
第8回	精神保健福祉実習	実習Ⅰ期		第23回	精神保健福祉実習	スーパービジョン【事例検討Ａ・Ｂ】	
第9回	精神保健福祉実習	実習Ⅰ期		第24回	精神保健福祉実習	スーパービジョン【事例検討Ｃ・Ｄ】	
第10回	精神保健福祉実習	実習Ⅰ期		第25回	精神保健福祉実習	スーパービジョン【事例検討Ｅ・Ｆ】	
第11回	精神保健福祉実習	実習Ⅰ期		第26回	精神保健福祉実習	スーパービジョン【事例検討Ｇ・Ｈ】	
第12回	精神保健福祉実習	⑧なぜ事後学習が必要か 実習Ⅰ期ふりかえり		第27回	精神保健福祉実習	スーパービジョン【事例検討Ｉ・Ｊ】	
第13回	精神保健福祉実習	実習Ⅰ期ふりかえり 【実習Ⅱ期実習計画書作成】		第28回	精神保健福祉実習	プレ報告会	
第14回	精神保健福祉実習	実習Ⅰ期ふりかえり 【実習Ⅱ期実習計画書作成】		第29回	精神保健福祉実習	公開報告会	
第15回	精神保健福祉実習	実習Ⅰ期ふりかえり 【実習Ⅱ期実習計画書作成】		第30回	精神保健福祉実習	実習総括書仕上げ	

評価方法及び評価基準	実習に関する取り組み状況（実習計画書、他）と総括報告書（50%）や、実習機関からの実習評価（50%）で総合評価する。精神保健福祉実習Ⅰ・Ⅱと事前学習、事後学習から精神保健福祉士の専門性をどのように理解したか、また自己覚知したかを評価する。
教材教科書参考書	本学の「精神保健福祉実習の手引き」と資料を配布する予定である。
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44402	単位数 時　間	6単位 90時間	対象学年	4年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　選択	担当者名	葛西　久志			授業形態	演習		単独

授業の概要	地域における様々な精神保健福祉問題(うつ病・自殺予防対策、アデクション（アルコール依存症、ギャンブル依存等）対策問題、高齢者認知症対策問題、社会的ひきこもり等)からテーマを取り上げ、研究レポートを作成する。
到達目標	仮テーマ設定から始まり、事前調査する中で先行研究や、様々な調査研究等から、独自性あるテーマを考え、研究目的、研究方法を明確にして、卒業論文を完成させることが最終かつ最大目標である。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	ガイダンス	卒論執筆活動の流れ等説明		第16回	卒論指導	スケジュール、構成等の再確認	
第2回	個人面談	スケジュール・暫定テーマ		第17回	卒論指導	卒論個別指導	
第3回	個人面談	スケジュール・暫定テーマ		第18回	卒論指導	卒論個別指導	
第4回	卒論指導	論文の書き方		第19回	卒論指導	卒論個別指導	
第5回	卒論指導	文献の探し方		第20回	卒論指導	卒論個別指導	
第6回	卒論指導	文献の探し方		第21回	卒論指導	卒論個別指導	
第7回	卒論指導	論文素描：仮説		第22回	卒論指導	卒論個別指導	
第8回	卒論指導	論文素描：仮説		第23回	卒論指導	卒論個別指導	
第9回	卒論指導	論文素描：研究方法		第24回	卒論指導	卒論個別指導	
第10回	卒論指導	論文素描：研究方法		第25回	卒論指導	卒論個別指導	
第11回	卒論指導	論文構成：章立て		第26回	卒論指導	卒論個別指導	
第12回	卒論指導	論文構成：章立て		第27回	卒論指導	卒論個別指導	
第13回	卒論指導	論文構成：章立て		第28回	卒論指導	卒論個別指導	
第14回	中間発表会	タイトル・序論など		第29回	卒論研究発表会	卒論研究発表	
第15回	前期まとめ	中間発表からのふりかえり		第30回	総まとめ	卒論研究発表のふりかえり	

評価方法及び評価基準	卒業論文の作成過程状況（40%）や、論文の内容（60%）などで総合評価する。テーマ設定（仮説設定）の根拠、文献収集状況、論文構成状況と、自分の考えが論理的に作成されているかをなど総合評価する。
教材教科書参考書	資料配布（卒業論文の書き方など）、他は適宜個別指示する。
留意点	国家試験対策（受験対策方法、精神保健福祉に関する知識の整理）へのアドバイスも行う。

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44502	単位数時間	6単位 90時間	対象学年	4年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　選択	担当者名	北村　繁			授業形態	演習		単独

授業の概要	[キーワード：　地理学・地形学・火山灰編年学　] 地理学、地形学、または、火山灰編年学のいずれかの分野で、学生自らテーマを設定し、調査・分析を行う。
到達目標	自ら設定したテーマについて、調査・分析を行い、論文を作成する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	研究テーマ①	書籍などから調査・学習してきたことをもとに、研究テーマを絞り込む		第16回	分析と追加調査①	調査結果を分析し、必要に応じて追加調査を行う	
第2回	研究テーマ②	〃		第17回	分析と追加調査②	〃	
第3回	研究テーマ③	〃		第18回	分析と追加調査③	〃	
第4回	研究テーマ④	〃		第19回	分析と追加調査④	〃	
第5回	研究テーマ⑤	〃		第20回	分析と追加調査⑤	〃	
第6回	研究テーマ⑥	〃		第21回	論文の執筆①	調査と分析から得られた結果について書いてきたものを検討する	
第7回	研究テーマ⑦	〃		第22回	論文の執筆②	〃	
第8回	研究テーマ⑧	第１～７回で絞り込んできたテーマをまとめ、目標規定文にしてみる		第23回	論文の執筆③	〃	
第9回	調査準備①	調査に必要な知識について自ら学習してきたものにてついて発表する		第24回	論文の執筆④	〃	
第10回	調査準備②	〃		第25回	論文の執筆⑤	〃	
第11回	調査準備③	〃		第26回	成果発表と論文の提出	論文としてまとめられた成果について発表し、論文の草稿を提出する	
第12回	調査準備④	〃		第27回	論文の改稿・仕上げ①	発表で指摘のあった点について検討し、論文としての完成度を高める	
第13回	調査準備⑤	夏季休業中に行う調査の計画立案		第28回	論文の改稿・仕上げ②	〃	
第14回	調査準備⑥	〃		第29回	論文の改稿・仕上げ③	〃	
第15回	調査準備⑦	〃		第30回	論文の改稿・仕上げ④	〃	

評価方法及び評価基準	毎回の口頭試問、途中経過の発表、卒業論文を、総合的に評価する。必ず、所定の日時にゼミに参加し、指示された修正を施した卒業論文をまとめ、期限までに提出すること。
教材教科書参考書	特に指定しない。ただし、卒論を進めるために必要となる文献を読むこと。
留意点	１．原則として、前年度以前に、同じ担当者の専門演習Ⅰを修得していること。 ２．地理学、地形学、または、火山灰編年学の専門知識を必要とするので、履修登録の前に、必ず相談に来ること。 ３．また、実際の単位修得においては、時間外の作業・調査・学習がかなり必要になるほか、夏季休業中のかなりの時間を調査をすることになる。 ＜参考１＞担当教員の2016年度の研究テーマ（予定） ① 中米エルサルバドル・レンパ川下流域の地形発達史　② 中米・エルサルバドル中部地域の火山灰層序 ③ 中米・エルサルバドルの先古典期土器に含まれる火山ガラスの分析　④ 岩木火山・八甲田火山の火山灰層序と噴火史

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44503	単位数 時　間	6単位 90時間	対象学年	4年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　選択	担当者名	西東　克介			授業形態	演習		単独

授業の概要	［キーワード：研究、理論と実践、専門性と組織］ ・まず、３年時までの途中経過を発表します。 ・その発表は、卒業研究全体のどの部分にあたり、残りをどのように仕上げていくかを説明します。 ・その後、ゼミ生と教員間で質疑応答を重ね、これらの情報からゼミ生は、卒業研究の計画を作成します。 ・順番に発表を続けていきます。
到達目標	・卒業研究を仕上げます。 ・卒業研究を仕上げられなかった場合は、発表し続けたものを一つにまとめます。 ・できれば、卒業研究発表会を行います。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	本専門演習Ⅱの概要説明	卒業研究を仕上げるか仕上げないか		第16回	宗教と学問の違い	宗教と学問の違いを米国の歴史から考察。	
第2回	学術論文とは何か	学術論文についての基礎的理解		第17回	ユダヤ教と米国	米国史におけるユダヤ教を信仰する人たちの政府と国民の対応の仕方	
第3回	理論とは何か	理論に関する基礎的理解		第18回	キリスト教と米国	米国を形成してきたプロテスタントとカソリック	
第4回	実証とは何か	実証に関する基礎的理解		第19回	イスラム教と米国	米国におけるイスラム教を信仰する人々への対応	
第5回	価値とは何か	学問と価値は完全に分離することはできない。		第20回	日本の仏教と神道	日本の仏教と神道を明治維新から終戦までで考えます。	
第6回	哲学・思想・道徳・倫理・規範の違い	価値についての考え方を代表的な語句から考察。		第21回	宗教・人種・民族	宗教は、多くの人々の精神的育成に貢献するが、ときにこれが人種・民族を巻き込み、武力衝突にまで至ってしまう。	
第7回	政策科学（公共政策論）とは何か	政策科学は学問で区分することはできない。しかも価値が多くの場合最初から最後まで絡められている。		第22回	ロマについて	ヨーロッパでは国を超えて移動しながら生活をするロマの人たちがいる。	
第8回	自然科学とは何か	自然科学は学問の中で最も価値から離れた位置にある。ただ、自然科学が政策科学に近づいたり、政策科学として研究されると価値が多く含まれた研究になります。		第23回	客家（はっか）について	漢民族の中で客家と言われる人々は、外国で活躍する華僑の８割を占めるといいます。客家の歴史から学びます。	
第9回	人文科学とは何か	様々な特徴を示す学問分野があります。ある程度の整理をして説明。		第24回	カーストについて	インドの差別的慣習カーストは制度以上に根強いと言われます。	
第10回	社会科学とは何か	科学となるべく、自然科学の研究方法を取り入れたが、価値の問題を解決できてはいない。		第25回	米国黒人差別について	今だ続く米国の黒人差別について考えます。	
第11回	応用科学とは何か	自然科学や社会科学の応用から発展。やはり、価値からは分離できていない。		第26回	米国「インディアン」差別について	米国「インディアン」について歴史的に考えます。	
第12回	専門職（プロフェッショん）と専門性（プロフェッショナ	専門職の２つの能力について解説。		第27回	米国アジア人差別について	米国アジア人差別について、歴史的に考えます。	
第13回	専門職と組織	今日の多くの専門職は組織で働いている。よってその独立性に関する課題が生じている。		第28回	米国ヒスパニック差別について	将来、米国で多数派になるかもしれなと言われるヒスパニック。その現実は厳しいものがあります。	
第14回	専門分化とその弊害	専門職をはじめとした仕事の専門分化は必然です。しかし、人口が少ないとあらゆる専門職をそろえることは困難になります。		第29回	少数派と弱い立場で考え行動するとは	少数派と弱い立場で考え行動することで、人間の能力は改善されます。	
第15回	総合性とその弊害	専門職が多いと総合性が求められます。しかし、専門職の総合性を引き出すには、能力の高いリーダーシップは必要になります。このようなリーダーシップ育成の課題。		第30回	福祉学部で学んだ意義	福祉学部で学ぶ意義とは何でしょうか。	

評価方法及び評価基準	卒業論文か短縮論文（いずれも100%）　文章構成と論理性を評価
教材教科書参考書	これまで使っていたものを使ってください。
留意点	本専門演習Ⅱの履修希望者は、本演習が終わるまでに、少なくとも「政治学A」・「政治学B」の履修をしておいてください。できれば単位習得を望みます。上記の授業内容は、演習の時間の中で、わずかな時間があいたときに教員が学生に説明を心掛けるものです。よって、授業の中心は、学生が調べて研究したものを発表し、これを学生と教員で質疑応答を繰り返します。

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44405	単位数 時　間	6単位 90時間	対象学年	4年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　選択	担当者名	松本　郁代			授業形態	演習		単独
授業の概要	日本における社会福祉の歴史について、テーマを設定し、論文もしくはレポートを執筆する。								
到達目標	卒業論文またはレポートを執筆すること。安易に「論文」・「研究」という言葉を使わず、内実の伴ったものを執筆できるようになること。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	論文を書く前に①	論文とレポートの違い		第16回	論文のきまり	論文執筆のいろは	
第2回	論文を書く前に②	何のために、何を書くのか		第17回	引用の示し方	参考は学会誌	
第3回	年間計画の立て方	限定された時間を論文執筆にあてる方法		第18回	参考文献・引用文献の書き方	怪しい文献リストは、論文の命取り	
第4回	テーマ設定の仕方①	それを勉強しないと生きていけないテーマとは？		第19回	専門用語の定義	論文で使用する用語は、定義が必要	
第5回	テーマ設定の仕方②	先行研究を越えて		第20回	事実と意見の分け方	事実と意見を分けよう	
第6回	先行研究の探し方	研究レビューのない論文は、論文ではない		第21回	論理的に書くには	「逆茂木」の文章とは	
第7回	先行研究の読み方	先行研究に敬意をはらう		第22回	註と見出し	註のない論文は、論文か？	
第8回	研究方法の選び方	歴史的研究は、文献研究のみ？		第23回	論文構成の実際	論文のアウトラインを作ろう	
第9回	調査的面接の実際①	インタビューをする前に		第24回	卒論の展開の仕方	卒論の限界	
第10回	調査的面接の実際②	インタビューをしてみよう		第25回	論文の点検と推敲	別の環境で推敲せよ	
第11回	研究の倫理①	研究の節度		第26回	卒論の報告・議論①	書きたいことを口頭で説明する	
第12回	研究の倫理②	「コピペ」を越えて		第27回	卒論の報告・議論②	書きたいことについて、意見をもらう	
第13回	文献検索の方法①	図書館に行っていますか？		第28回	卒論発表の実際	書いた卒論を披露する	
第14回	文献検索の方法②	よその図書館利用法		第29回	発表論文への道	本当に「論文」になっているなら	
第15回	文献検索の方法③	公文書館に行っていますか？		第30回	まとめ	一年間を振り返って	

評価方法及び評価基準	演習への参加度および平常点と卒論・レポートを半々で評価する
教材教科書参考書	白井利明・高橋一郎著（2013）『やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ　よくわかる卒論の書き方　第２版』ミネルヴァ書房、鈴木淳子（2002）『調査的面接の技法』ナカニシヤ出版
留意点	社会福祉発達史Ａ・Ｂを履修していることが、望ましい

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44505	単位数 時　間	6単位 90時間	対象学年	4年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　選択	担当者名	棟方　達也			授業形態	演習		単独

授業の概要	卒業研究はスポーツ（主としてアウトドアスポーツ）に関するテーマを扱う。尚、研究の成果は必ずしも論文形式とは限らない。各自の設定課題、テーマに対して最もふさわしい形式（論文の他、視察・体験報告、企画、創作等）を選択してほしい。従って、当然ながら、授業時間外の活動、調査、作業等も求められることになる。
到達目標	卒業研究の結実

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	ガイダンス	本ゼミの受講にあたっての諸注意と確認		第16回	夏期休業中実績報告会	夏期休業前の計画をふまえた実績報告	
第2回	年間計画	卒業研究の他、演習Ⅰの実習との関わり方を含む（オブザーバー）		第17回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）	
第3回	卒業研究指導	テーマの確認（テーマの絞り込み）		第18回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）	
第4回	卒業研究指導	研究形式の決定と研究計画（研究構想の提示）		第19回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）	
第5回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）		第20回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）	
第6回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）		第21回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）	
第7回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）		第22回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）※状況によっては中間発表会	
第8回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）		第23回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）	
第9回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）		第24回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）	
第10回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）		第25回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）	
第11回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）		第26回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）	
第12回	卒業研究指導	経過報告と指導（報告準備）		第27回	研究成果の提出	内容確認、補足、修正　等	
第13回	卒業研究指導	中間発表準備（レジュメ準備）		第28回	研究成果確定	確認及び発表形式について	
第14回	中間発表会	ppt.その他の形式による発表（レジュメ準備）		第29回	最終発表準備	発表準備（レジュメ準備）と最終確認	
第15回	夏期休業中の計画	テーマ・研究形式に応じたスケジュールの確認		第30回	最終発表会	研究形式に応じた発表と評価	

評価方法及び評価基準	報告と中間発表：２０％　卒業研究成果：８０％　　研究形式に即した内容と成果のまとめ方を評価する。　※オブザーバーとして演習Ⅰの実習に参加した場合は、その状況も考慮する。
教材教科書参考書	特に指定しない
留意点	３年次の専門演習Ⅰは棟方ゼミを履修していること。

科目名	専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）	科目コード	W44501	単位数 時　間	6単位 90時間	対象学年	4年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　選択	担当者名	小川　幸裕			授業形態	演習		単独

授業の概要	［キーワード：卒業論文］ 社会福祉に関する諸問題について、自らが興味関心を持ったテーマを選び、これまで修得してき知識や技能を統合して研究を行い、卒業論文またはレポートをまとめることを目指す。卒業論文やレポートの作成に伴う、「研究テーマの設定」「先行研究のレビュー」「研究の背景・目的」「研究方法」「考察」などに関するレジュメの作成および報告を行う。
到達目標	1）研究テーマを設定することができる。 2）先行研究のレビューを行うことができる。 3）研究の背景および目的を記載することができる。 4）研究方法を記載できる。 5）考察を記載できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	1）演習の進め方 2）評価方法および基準		第16回	考察の検討（1）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第2回	研究テーマの設定（1）	1）レジメの報告 2）全体討論		第17回	考察の検討（2）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第3回	研究テーマの設定（2）	1）レジメの報告 2）全体討論		第18回	考察の検討（3）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第4回	研究テーマの設定（3）	1）レジメの報告 2）全体討論		第19回	考察の検討（4）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第5回	先行研究のレビュー（1）	1）レジメの報告 2）全体討論		第20回	報告・議論（1）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第6回	先行研究のレビュー（2）	1）レジメの報告 2）全体討論		第21回	報告・議論（2）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第7回	先行研究のレビュー（3）	1）レジメの報告 2）全体討論		第22回	報告・議論（3）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第8回	先行研究のレビュー（4）	1）レジメの報告 2）全体討論		第23回	報告・議論（4）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第9回	研究の背景・目的の検討（1）	1）レジメの報告 2）全体討論		第24回	報告・議論（5）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第10回	研究の背景・目的の検討（2）	1）レジメの報告 2）全体討論		第25回	報告・議論（6）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第11回	研究の背景・目的の検討（3）	1）レジメの報告 2）全体討論		第26回	報告・議論（7）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第12回	研究方法の検討（1）	1）レジメの報告 2）全体討論		第27回	報告・議論（8）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第13回	研究方法の検討（2）	1）レジメの報告 2）全体討論		第28回	報告・議論（9）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第14回	研究方法の検討（3）	1）レジメの報告 2）全体討論		第29回	報告・議論（10）	1）レジメの報告 2）全体討論	
第15回	研究方法の検討（4）	1）レジメの報告 2）全体討論		第30回	まとめ	1）卒論発表 2）総括	

評価方法及び評価基準	1）卒業論文・レポート70％、レジュメ作成および報告30％ 2）卒業論文・レポートの執筆にあたって、先行研究のレビュー、研究の背景・目的、研究方法、考察などの執筆過程についても評価する。 3）卒業論文・レポートは、着眼点、構成と文章力、その内容の論理性、妥当性、客観性、オリジナリティ、先行研究などの収集とまとめ、その到達レベルを総合的に評価する。
教材 教科書 参考書	学生の研究内容に応じ、必要な資料や文献を指示する。
留意点	卒業論文およびレポートの作成に意欲的に取り組むことを期待します。

科目名	専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）	科目コード	W44603	単位数 時　間	6単位 90時間	対象学年	4年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　選択	担当者名	藤岡　真之			授業形態	演習		単独

授業の概要	この演習では、大学で４年間学んできたことの証しとして卒業論文を執筆する。論文の執筆は時間も手間もかかり、たやすいことではない。しかし、ひとつずつ積み重ねて論文を完成させた暁には大きな達成感が得られ、これまでみたことのなかった景色をみられるようになるであろう。あなた自身の今後の人生にも何らかの影響を与え続けるかもしれない（そのようなテーマを扱ってほしい）。ただしこのような達成に至るためには、自らの意志で問題を掘り起こし続ける粘り強さが必要である。なお、論文のテーマについては各自の関心を重んじる。
到達目標	論文の完成

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	ガイダンス	演習の進め方について		第16回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する	
第2回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ		第17回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する	
第3回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ		第18回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する	
第4回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ		第19回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する	
第5回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する		第20回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する	
第6回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する		第21回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する	
第7回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する		第22回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する	
第8回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する		第23回	中間報告	途中経過を報告する	
第9回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する		第24回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する	
第10回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する		第25回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する	
第11回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する		第26回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する	
第12回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する		第27回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する	
第13回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する		第28回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する	
第14回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する		第29回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する	
第15回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する		第30回	論文の発表	完成した論文を発表する	

評価方法及び評価基準	授業への参加度、途中の報告、卒業論文を総合的に評価する。
教材教科書参考書	適宜、指示する
留意点	

科目名	専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）	科目コード	W44602	単位数 時　間	6単位 90時間	対象学年	4年	開講学期	通年
区分	社会福祉専門教育科目　選択	担当者名	柘植　秀通			授業形態	演習		単独

授業の概要	社会福祉の基本には、人とは何であるか、人間の存在価値とはなにか、幸福とは何か、といった哲学的に深い問題がある。こうした哲学的問題を、それぞれの発表や討論等を通して、学ぶ。また、特に後期は、国家試験を受験する場合には、国試の勉強に特化して行うことも考えている。
到達目標	人間の尊厳とはなにか、なぜ人間は尊いといえるのか、といった問題に自分なりの答えを出せるようになること。また、国試を受ける者は、国家試験に合格できるようになること。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要説明		第16回	人工妊娠中絶について１	妊娠中雑がどこまで許されるべきか、また許されざるべきかを考察、意見交換	
第2回	福祉と哲学１	哲学とは何であり、福祉とどのような関係にあるかについての考察発表		第17回	人工妊娠中絶について２	妊娠中雑がどこまで許されるべきか、また許されざるべきかを考察、意見交換	
第3回	福祉と哲学２	哲学とは何であり、福祉とどのような関係にあるかについての考察発表		第18回	安楽死について１	安楽死が許されるケースについて、また許されない理由について考察、意見交換	
第4回	人間の尊厳１	人間の尊厳について考察、発表を行う。		第19回	安楽死について１	安楽死が許されるケースについて、また許されない理由について考察、意見交換	
第5回	人間の尊厳２	人間の尊厳について考察、発表を行う。		第20回	性同一性障害について１	性同一性障害の原因と、倫理的な意味について考察する。	
第6回	人間の尊厳３	人間の尊厳について考察、発表を行う。		第21回	性同一性障害について１	性同一性障害の原因と、倫理的な意味について考察する。	
第7回	自由について１	自由の意味について考える		第22回	サイボーグ技術と人間のあり方１	進展しているサイボーグ技術について、特に障害や内部障がいとの関わりから考える。	
第8回	自由について２	自由の意味について考える		第23回	サイボーグ技術と人間のあり方１	進展しているサイボーグ技術について、特に障害や内部障がいとの関わりから考える。	
第9回	自己決定について１	本来の意味の自己決定とは何であるかを考察する。		第24回	難民と戦争１	難民の問題と、日本の進むべき方向について考察する。	
第10回	自己決定について２	本来の意味の自己決定とは何であるかを考察する。		第25回	難民と戦争１	難民の問題と、日本の進むべき方向について考察する。	
第11回	キリスト教倫理について１	キリスト教倫理について、概説と意見交換		第26回	世界の貧困問題１	貧困とは何か。その問題点について考察する。	
第12回	キリスト教倫理について１	キリスト教倫理とは何かについて討論を行う		第27回	世界の貧困問題１	貧困とは何か。その問題点について考察する。	
第13回	キリスト教倫理について１	キリスト教倫理とは何かについて討論を行う		第28回	人間の存在価値について１	一人一人の価値について考える。	
第14回	生命について１	生命とは何かについて考察、討論		第29回	人間の存在価値について１	一人一人の価値について考える。	
第15回	生命について１	生命とは何かについて考察、討論		第30回	福祉の意味について	福祉の根本的意味について考察する。	

評価方法及び評価基準	それぞれのテーマで、発表を行いながら、卒業論文にまでつなげていき、論文内容で８０％。それに加えて、授業内での参加度２０％。 論文内容とは、その論旨の展開、研究方法の正当性、資料の使用法等に関し評価を行う。
教材教科書参考書	特になし
留意点	